



なかしま・めぐみ
中嶋 慈さん

旧佐伯町で
広報歴 2年

広報さいき
平成15年2月22日
開庁記念号



り、わたしの財産となっています。
閉庁記念号に携わったとき、別室にこもって古い写真を探しましたが、昔の写真を見ては「当時はこんな感じだったのか」と感慨深く思ったのを覚えています。

とにかくイベントなどの行事に出て、住民の姿、まちの姿を残そうと思っていました。一枚でも多くの写真、一人でも多くの人を掲載することを心掛けました。
取材でお話を聞かせていただいたことは、とても貴重な経験であ

も、いい思い出です。
行政広報紙なので、行政からの大事なお知らせを掲載するのは当然のことです。しかし、税金や制度変更など少し難しい内容のものでも、分かりやすく、また読みやすく伝えることに注意しました。

吉和では、情報を住民にお伝えるのに防災行政無線もありますが、広報紙は形となって残るもの。いつも緊張感を持って臨んでいました。
インターネットなどのない当時、参考文献を調べるのに苦労したの



のじま・みお
能島 美緒さん

旧吉和村で
広報歴 11年

広報よしわ
平成15年2月号



思い起こせば

「広報はつかいち」には55年の歴史があり、旧佐伯町、旧吉和村、旧大野町、旧宮島町、それぞれの広報紙も、歴史を刻んできました。今は懐かし、あんな記事、こんな記事。「あのころ」を紙面で振り返ってみましょう。

— 本文を抜粋しています —

昭和33年10月1日
創刊号から

メートル法になれましょう
昭和三十四年
一月一日から
ヤードポンド尺貫
などは使えませ

昭和37年7月1日号から

赤ちゃんを守る
▷新生児指導員◁

満一才迄の赤ちゃんを乳児と呼ばれていますがその中で出生後28日を経過しない乳児を「新生児」と呼ばれます。折角生まれた可愛い赤ちゃんも不注意のために死亡する率が大変に多くその中でも乳児の死亡数の約55%はこの新生児期というほんとうに生まれたての赤ちゃんということになります。母の体内での恵まれた生活条件の中から体外にとびだして自立しなければなりません。この赤ちゃんの生命を守るため「新生児家庭訪問指導員」というものが誕生いたしました。

昭和37年11月1日号から

自動電話のかけ方
11月18日から自動電話に

代的な自動電話が開通されます。自動式電話になりますと電話のかけ方が今までと変わりますから、これをよく知っていただかないと便利な機械も不便なものになります。この機会に基本的な自動式電話のかけ方についてお知らせします。

●ダイヤルはこのようにまわします

自動式電話はダイヤルを廻すことで接続されますから正確にまわすことが必要です。

ダイヤルを廻すには先方の電話番号をたしかめ受話器を耳にあて、ツーンという発信音を確認してから

- 1 指穴に人差指を入れます
- 2 指止めまでまわします
- 3 指止めまできたら指をはなします

昭和39年6月1日号から

雷光の祝福に
新変電所

国鉄、廿日市変電所が完成しました。10月1日からの電化にそなえて宮内串戸踏切の所へ建設されました。この変電所は中国電力宮内変電所から22,000ボルトの交流電力を送電してもらい、この変電所で1,500ボルトの直流になおし、己斐～大野間の送電線へ電力を送る役割をします。建物は鉄筋コンクリートの二階建て、建築面積は、333.4平方メートル工事費の総額は7,629万1千円。電化されますと今までの蒸気機関車一部を残して姿を消し、新しい電車が走るのも間近かです。

昭和38年3月20日号から

医師会全力あげて
感染防止に努力

赤痢異常発生

去る二月中旬から本町は未曾有の赤痢禍に襲われた。このおりは、下痢患者が急に増えており、この患者から血便を検出したので調べてほしいとの医師からの届出が廿日市保健所へ相次いでなされた。この連絡を受けた廿日市保健所は、さっそく患者の便を四十八時間の培養検査をした結果、ソルネー型赤痢菌を発見した。ただちに「防疫対策緊急会議」を開き同保健所と廿日市町役場に「防疫対策本部」を設けて下痢患者などの検索にあたった。

昭和43年11月15日号から

ネズミを
買上げます

ネズミ一匹二〇円

ご存知のように十一月から翌年一月までの間はネズミ取りの期間です。ネズミ一匹お取りになると報奨金として二〇円相当の品を差し上げます。捕獲したネズミの「しっぽ」をもって地区の衛生推進委員まで申出てください。

昭和42年3月1日号から

あなたの血液型は
ご存知ですか
—血液検査を受けましょう—

廿日市町社会福祉協議会では、四十一年より町内の血液型の判定を、実施してまいりましたが、まだ判定を受けておられない方が、相当あると思われるので、つきのとおり血液型の判定を行います。料金ははいりませんので一家揃って都合のよい場所へおでかけください。

昭和63年4月15日号から

華やかに、
楽しく
パースデーフェスタ

市制を祝って
多彩なセレモニー

「廿日市市誕生」を祝つてさまざまな記念行事が4月1日からスタートしましたが、今回は1日から3日まで行われたパースデーフェスタを中心にカメラレポートで紹介しました。

4月1日には、市役所前庭で開市式や市民憲章碑の除幕式、市の花・木の記念植樹、タイムカプセルの埋設式が、約300人の関係者と大勢の報道陣が見守るなかで行われました。

4月2日は、阿品台東小学校で招待者約700人が出席して記念式典などが開かれました。

廿日市市誕生



たむら・やすひろ
田村 恭宏さん

旧大野町で
閉庁号を担当

広報おおの
平成17年10月20日特
別号



初めて組んだ図書館の特集に悪戦苦闘したことを今でも鮮明に覚えています。
広報紙はまちの「今」を伝える古里の情報紙。しかし、時が経てば、時代を写し取った古文書になると思っています。

閉庁号で使用した写真には、発展するまちの中に残る懐かしい思い出がたくさんありました。
時の流れとともに移りゆくまちの姿や、人々の営みを記憶に残るよう心を込めて作りました。
担当した期間は短かったですが、

ともしばしばありました…。
広報紙は、そこに住んでいる人に配られるもの。分かりやすいのはもちろんですが、そのまちならではの匂いや、生活の息づかいが感じられる紙面づくりを心掛けていました。

宮島を歩いて見つけた「ここにしかないもの」をイラストで紹介した「まちかどスケッチ」のコーナーを新設しました。
気を付けたのは、間違いをしないこと。ですが、印刷された広報紙に係員総出でシールを貼ったこ



しらみず・ひろし
白水 浩さん

旧宮島町で
広報歴 4年

広報みやじま
平成17年10月号
最終号

